

Meet the



語り手

加来 浩平 先生

Guest: Kohei Kaku

川崎医科大学内科学 特任教授

紆余曲折を経て糖尿病学の道に

谷澤 本日は山口大学医学部の大先輩でいらっしゃいます。加来浩平先生にこれまでの歩みを伺い、若手の先生方を元気づけるようなお話をいただきたいと思います。先生は活力溢れる団塊の世代にあたりますが、お生まれは確か炭鉱の町と伺っております。

加来 炭鉱華やかなりし頃の福岡県筑豊地区に生まれました。父も一時は炭鉱を経営していたと聞いていますが、身内に医師は1人もいませんでした。

谷澤 そのような環境のなかでなぜ医学部を選ばれたのでしょうか。

加来 実を申しますと、丹下健三氏が設計された近代的な建築物の素晴らしさに衝撃を受け、元々は建築家に憧れて理系を選択したのです。ところが、高校3年生になる頃に進路指導の先生から、おそらくは医学部への進学者を輩出すると学校の評価につながるということで医学部を勧められたのです。父親も建築家を目指すのではなく、医学部に進むほうがよいのではないかという意見だったことから医学部を受験しました。山口大学医学部に入学し、最初の2年間は谷澤先生もご存知の通り山口市内のキャンパスで過ごしました。大学入学前は、賑やかな街に住んでいたものですから山口市の落ち着いた文化的な雰囲気をとても好ましく感じました。

谷澤 医学部の学生時代は軽音楽部で活躍されたと聞いています。私は現在、その軽音楽部の顧問をしているのですよ。

加来 当時、山口大学の軽音楽部は全国的にも有名でしたし、「山口大学軽音楽部医学科」とも称していましたね。私はサクスを担当していたのですが、音楽にのめり込むあまり学業のほうはおろそかになりがちで、4年生のときには大学を辞めてプロを目指そうと思ったくらいでした。ですが、憧れのサクソプレーヤーである渡辺貞夫氏とお話したときに、「プロになりたい」と言ったところ、「音楽

SAMPLE